

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 田原 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

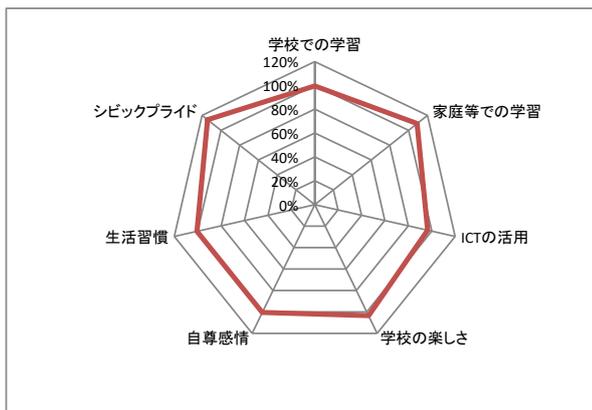
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答数は本市の平均とほぼ同程度であった。「書くこと」「読むこと」に関しては、全国の正答率より高い結果となっている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	「データの活用」領域では、正答率が比較的高い結果となっている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	複数の集団のデータの分布の傾向を比較しく読み取り、判断の理由を数値的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達関係に満足していますか」との問いに対して約90%の生徒が肯定的に回答している。 ・「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答した割合が低かった。今後は、総合的な学習の時間だけでなく、各教科における発表場面でも、どのように表現すればより伝わるかを考えさせたり、指導したりする。 ・「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した割合が高かった。今後も、生徒が活躍できるよう行事や生徒会活動を充実させ、がんばったことを評価し、周りにも伝えていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

各教科の授業の中で、生徒に「なぜ？」を意識し、問題の背景や根拠を考えさせ、問題の本質をとらえる力を育む。そして既習内容との関連性を確認することで、知識の理解を確かなものにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭内においても子どもに何か役割を与え、できたことを保護者が評価することで、自分が役立っていることを実感させる。